

(様式第 6 号 別紙)

長崎県福祉サービス第三評価結果報告

① 第三者評価機関名

有限会社 医療福祉評価センター

② 事業者情報

名称：HOME しまばら	種別：共同生活援助
代表者氏名：田島 光浩	定員(利用人数)： 5 4 名
所在地：島原市宮の町 7 3 8	TEL：0957－62－8739

*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

③施設・事業所の特徴的な取組

・HOME しまばらは南高愛隣会が島原地区に拠点化事業の一環で、複数の障害福祉サービスを集合させた建物に事務所を構えている。拠点名はローカルステーションライズと命名されていて、陽が昇る明るく生命を感じるイメージを意識して、明るい場所には人が集い、地域の灯(ともしび)になることをコンセプトにしている。 ・ローカルステーションライズには共同生活援助 HOME しまばらの他に、生活介護、就業継続支援 B 型、放課後等デイサービスの事業を実施しており、利用者や支援者の声が常に建物内に聞こえてきて、長崎県の木材をふんだんに使った上品な建物と、活気のある雰囲気がとても居心地の良さを感じる空間となっていた。 ・法人の拠点化事業は「地域の方々と繋がる」というコンセプトもあり、老若男女問わず、いろいろな人がそれぞれの目的で訪れる場となっている。1 つ例を挙げると、年に 3 回ほど「しまばらごはんの日」と位置付けて「子ども食堂」を開催していた。現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で食材提供のみで、集う機会は減っているが、コロナ禍が明ければ集う場を地域住民に開放する予定である。 ・HOME しまばらは利用者本位の支援を日々行っている。特に利用者の「～したい。」という意欲をととても大切にされていて、危険が及ばない限りは利用者も失敗する権利があるという視点の下、障がい者だから最初から「～できない」、「～してはだめ」、「危ないからやめておこう」ではなく、どうやったらできるか利用者と真剣に向き合っている。この考え方は法人の理念である「生きる誇りへの、挑戦。」にもつながっていて、この実践が利用者アンケートで高評価を得ている 1 つの理由とも言える。

④第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 3 年 8 月 4 日（契約日） ～ 令和 4 年 3 月 4 日（評価結果確定日）
受審回数	今回が初めて

⑤総評

◇特に評価の高い点

【管理者のリーダーシップ】

管理者は拠点化されたローカルステーションライズの4事業の支援者の交流について、様々な事業及び勤務形態等複合的に交錯して、深めることができていないことを危惧していた。このような状況を打破するため、今年度よりカフェトーク（支援者が拠点に集まってティータイムを共に過ごす）を開催するようにして、拠点に所属する支援者が顔なじみであり、仲間意識を深めることができるように取組んでいる。まずは顔の見える関係を作って、徐々に法人の理念や事業所の方針を共通認識する関係となり、最終的には利用者支援の質の向上につなげていきたい方針であった。このように課題と感じたことに対してスピード対応するところは、管理者の資質の1つと考えられる。

【地域との交流】

利用者にとっても地域住民にとってもお互いに安心した生活が送ることができるように、法人として、また事業所として地域との関わりを大切にする姿勢が鮮明である。地域との信頼関係はすぐすぐに構築されるものではなく法人の歴史的な関与や支援者の配慮等、今までの積み重ねが、現在の形となっている。基本的なことかもしれないが、挨拶を率先して行うことや、地域の掃除をする。また、地域の自治体に参加して共に地域の課題に向き合う等、日々忠実に取組んでいる。

【公益的な取組み】

HOME しまばらの事務所が入っている島原地区の拠点「ローカルステーションライズ」は、気軽に地域住民が足を運ぶことのできるよう交流スペースを設けていて、老若男女問わず色々な人が交流する場となっている。現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で交流スペースは解放できていないが、今後、子ども食堂を再開させたり、余暇活動を行う団体を受入れたり、コロナ禍以前の姿に戻していく方針であった。

◇改善を求められる点

【事業計画の周知】

支援者に対する法人や拠点、事業所の事業計画の説明は体制として確立しているが、利用者やご家族に対しては口頭で行うに留まっているとのことであった。法人のホームページを閲覧すれば事業計画を見ることは可能であるが、利用者の特性等を考慮して、可能であれば簡潔な表現で文章化して渡す等、「理解しやすさ・分かりやすさ」を第一優先に実施することを期待したい。

【支援者の質の向上に向けた体制の確立】

利用者と一番身近な存在である支援者(世話人)への資質向上に向けた取組みの再構築を期待したい。現在、既にロールプレイ研修を実施する等、すでに動き出している部分はあるが、支援者(世話人)の勤務時間、年齢層等総合的に勘案して効果的な「しまばらモデル(仮称)」のようなものを確立して、近未来的には法人全体に影響を及ぼすことを期待したい。

⑥第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受けた中で、これまでの当事業所の事業運営や利用者支援について、客観的に見つめなおす機会となりましたことを改めて感謝いたします。
今回の評価内容において、事業所の強みと課題を知ることができました。
今後、より支援の質を高めることと、風通しの良い事業運営を継続していきたいと考えます。

⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)